

久世広周 老中。幕府の公武合体派の中心で、和宮降嫁実現に尽力、長井雅楽を支援して失敗し、失脚。

くぜひろちか

群書類従完結1819 = 旗本大草高好の次男に生まる。

シノブ事件・1828 = 9歳：

シノブ追放・1829 = 10歳：関宿藩主久世広運の養子となり、

富籤流行・1830 = 11歳：養父の遺領5万8千石を賜わる。

天保大飢饉始1833 = 14歳：従五位下隠岐守に任ず(のち出雲守・大和守)。

滑稽+人情本 1835 = 16歳：福山藩主阿部正寧の妹を姿る。阿部正弘は正寧の弟で、広周の義兄にあたる。

大塩平八郎乱1837 = 18歳：奏者番、

順天堂始・1843 = 24歳：寺社奉行を兼ね、

阿部正弘首座1845 = 26歳：

孝明天皇・1846 = 27歳：

・1848 = 29歳：西ノ丸老中に転じ、

北斎没・1849 = 30歳：侍従に任ず。

尊徳報徳論・1851 = 32歳：*老中となる。

ペリー来航・1853 = 34歳：*徳川斉昭登用の件に関しては、正弘を強く支持し、反対派を押えた。

一般には正弘派と見られ、一橋慶喜擁立を図る松平慶永も入説を試みている。

安政大地震・1855 = 36歳：

五ヶ国条約・1858 = 39歳：_幕議での、不時登城を行なった三家らの処分を決定に、將軍大病時理由に強く反対、見合せを主張し、これより病と称して登城せず、まもなく老中を辞す。

桜田門外変・1860 = 41歳：*井伊直弼横死で、再び老中となり、和宮降嫁による公武合体に尽力、御縁組御用掛を命ぜられた。さらに老中首座として、普国との国交、ヒュースケン殺害事件、

遣欧使節・1861 = 42歳：_東禅寺事件、露艦対馬占拠事件でのオールコックとの会談など、列強と高まる攘夷論の間に苦慮するなか、長井雅楽の航海遠略論はきわめて魅力的で、彼の京都入説の成功のため大いに努力するが失敗し、

生麦事件・1862 = 43歳：*島津久光の国事周旋後は、全く見通しが立たなくなり、朝廷より上京の命を受くるも固辞、松平慶永に同行を要請もしたが、結局老中を辞した。在職中不束の取計いあるを以て、加恩の1万石上地・謹慎を命じられ、さらに、朝命に対し因循姑息の手段を講じたなどの理由により再処罰され、永蟄居、当主広文は1万石の上地を命ぜられ、

禁門の変・1864 = 45歳：_没した。